

TOPMessage



代表取締役社長

長谷川 裕晃

今年の東京は桜が満開になったと同時に真冬の気候に逆戻りしたような寒さが続いたため、例年に比べ少し長い期間お花見を楽しむことができました。さて、ご進学、ご入学されました学生の皆さん誠におめでとうございます。

東京学生会館も今期は37名の新入館生をお迎えいたしました。コロナが発生してから早2年が経過しましたが、この間学生の皆さんは本当に大変だったと思います。授業がリモートとなり、キャンパスに行けなくなった為友人もつくれず、部活もできず、景気の悪化から就職活動にも苦戦されたというお話をたくさん耳にしました。しかしここ最近ワクチン接種が進んだこともあり新規感染者数は高止まりしているようですが、重症患者数が低く推移している為、多くの学校が少しずつ通常授業にシフトしているようです。まだまだ手放しで安心出来る状況ではありませんが、徐々に回復元の日常を取り戻しつつあると感じます。

当会館は創業以来縁あって同じ屋根の下に住まう者同士となった在館者の皆さんが快適かつ安全で、何より沢山の良い思い出を作って巣立ってほしいという経営理念で運営して参りました。ここ最近ではコロナ禍の影響で大人数が集まるパーティーやイベントなどがしづらい状況になってしまいましたが、何か一つでも心に残る体験をして貰える様スタッフ一同知恵を絞っております。今後の感染状況にもよりますが、近い将来しっかりと安全対策を施しながら小規模でも趣向を凝らした催しができればと考えております。これからも在館者の皆さんがより快適な生活を送れるお手伝いをスタッフ一同引き続き行ってまいります。

館長 Message



館長

長谷川 真弓

今年の卒業式は袴姿も多くみられ、コロナ禍にも明るく晴れやかな気持ちで新社会人となる在館者を送り出すことができ、スタッフ一同大変うれしく思います。

又、新入館生の中には引越しで積み忘れてしまった荷物を、新しく設置した抗菌加工の宅配ボックスにて受け取られた方も多く見受けられ、慌ただしいお引越しの中にも、少し心に余裕が持てたのではないかと私もホッとしたところでございます。

エレベーターのボタンや『ラウンジカフェ風自習室』のドアノブに至るまで抗菌塗装し、毎日の拭き上げ清掃からスタッフも解放され皆様への「見守り」や「お声掛け」の余裕へと変える事が出来ました。

管理室もベテラン勢に加えまして若手夫妻を住み込み管理人に迎えました。皆様の東京での生活を更に安心安全にサポート出来る事と思います。私も昨年の10月より亡き義母の遺志を継いで館長に就任致しました。在館者の方々の『あったらいいな(良いな!)』のお声に迅速にお応えして喜んでいただけるよう希望ある進化をしてみたいと思います。

学校訪問 東京都品川区旗の台 昭和大学

● ヨハネス・フェルメールの名画



新入生の皆様のお引越しが一段落いたしましたこの時期、会館内での質をどのように上げていけるか、各大学様に伺いに行きま

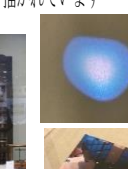
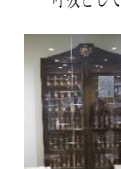
す。その時の私の楽しみは、基々の大学の建物の美しさや感動する歴史をお聞きする事です。今回は私共会館にも在館されている昭和大学の上條記念ミュージアムで3月の終わりまで開催されていた『呼吸を見る展』にお邪魔して、館長様はじめスタッフの方に貴重なお話を伺うことが出来ました。

● 「真珠の首飾りの少女」が目前に座ると人と同じ呼吸を合わせてきます。



● この展覧会は医療と芸術の融合を試みる(株)電通とのコラボレーションで大変質が高く見ごたえのある企画でした。自分の「呼吸が」作品に表現され、喜・怒・哀・楽を表す名画や振り子によって砂絵と相互に呼応し理想の「呼吸」へと導かれていくのを自分の目で確認できる優れた作品企画でした。

● 日本の版画絵は喜怒哀楽の怒りを現す呼吸として描かれています



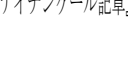
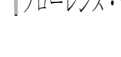
● 昭和大学病院は、多くのコロナ感染患者を受け入れてくれた病院でもあります。その対応の早さは『学祖上條秀介博士』の関東大震災による都市機能の全てを失った壮絶な医療崩壊の体験からくるものであった事を知りました。壊滅的被害の中に病気が怪我、両親子供を失った患者に誠心誠意救える能力と力量を持つ「臨床医家」を育成する重要性を世に訴え、わずか3年で『昭和医学専門学校』を開校させたそうです。その速さは東京大学時代授業中に書かれたノートが書籍として出版されるほどの天才であり、人望も高く同僚先輩方による絆から生まれたと言われています。お人柄は「人の話をよく聞き面倒見が良い」と大々人気だったそうです。

● 漢方、薬草、薬入れの棚もアンティークな感じが素晴らしいです。

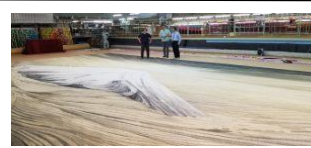


● 『上條一也先生』は米国のカレッジ生活の体験より全寮制宿舎(山梨県富士吉田)を建てるためにご自身と、教授の先生方と共に清掃までして開校に間に合わせたそうです。チームで行う様々なスポーツを通じて、医学・薬学・看護に至るまで総合的な人材協力を目指し、東京学生会館の理念『同じ釜の飯を食う』ような連帯感を作り上げる教育を目指しました。現在の企業経営、経済に係わる情報発信のリサーチでも各大学の9割が又、会社のメッセージとして、リモートワーク授業からリアルを望んでいるとの事です。「家の中にいたのでは、クリエイティブな事は生まれず温かみが無くなるのが嫌です。」と社員を説得するそうです。まさに上條一也先生が、このコロナ禍でも通用する教育方針だったと痛感いたしました。

● 「鈴木モヨ様」の受賞なされた『フローレンス・ナイチンゲール記章』の勲章他



● 昭和大学病院初代総看護婦長の『鈴木モヨ様』は世界的権威ある『フローレンス・ナイチンゲール記章』を受賞されています。この賞は国の元首又は赤十字総裁が「崇高な名誉に相応しい厳粛な式を行って授与する」との規定があるほどです。モヨさんは看護婦として当時の朝鮮に渡りロシア革命の戦闘中に追われた傷病者や避難民の救護にあたり、その後起きた関東大震災では命を惜しまない行動に東京に戻る命令が下りました。今で言うならば戦禍のウクライナから東日本大震災被災地に戻るような光景であったと思います。その中で頑張られたモヨさんはその後創設されたばかりの、現昭和大学病院の初代総看護婦長を務めました。



4か月かけて織あがった緞帳を確認



「黎明」中野嘉之氏の作品

上条記念講堂緞帳の原画原作者である中野名誉教授(多摩美術大学)の作品に忠実に手作業で500色もの色糸を用いて表現した日本の匠の技にはご本人も日本の伝統工芸の水準の高さには驚かされたそうです。



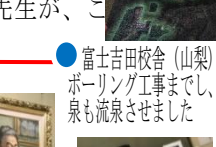
● 学祖上條秀介博士



● 学祖上條秀介博士



● 富士吉田校舎(山梨)にボーリング工事で、温泉も流泉させました



● 上条一也先生



東京学生会館の今をご紹介します

新入館歓迎・クリスマス ライブパーティー



世界チャンピオン
キックボクシング
勝次さん

現在は youtube でライブを配信中!
Youtube『東京学生会館 TKG』で検索してください



在館者によるサクソフォ演奏!!



大岩根正隆さん

国際色豊かな
ミュージシャンの
生演奏♪



2019.12.13の様子

毎年多彩なゲストをお迎えして6月と12月恒例開催して
きました新入館歓迎・クリスマス ライブパーティーには
多くの在館生の皆さんにもご参加いただきました。

BEIJING 2022



大岩根正隆さん

2022 北京パラリンピック出場!

コロナが蔓延する直前の2019年12月片腕の
スノーボーダー大岩根正隆さんが学生会館パー
ティーに遊びに来てくださいました。その会場で
「自分は2022年の北京パラリンピック出場を
目指して頑張りますので皆さんどうぞ応援してく
ださい」とコメントされ会場から割れんばかりの
喝采を浴びておりました。そしてその後訓練に訓
練を重ねた彼は見事パラリンピック出場を果たし
ました。

結果は惜しくもメダルには届きませんでしたが、
スノーボードクロス8位入賞、バンクドスラローム
12位と堂々たる成績を残してくれました。
早くも次回2026年パラリンピック出場を目指
すと発表されている大岩根さんですが、コロナが
終息した暁には是非またパーティーに来て頂き学
生の皆さんに大きな刺激を与えてくれる事を期待
しております。

会館リフォーム 外壁塗装工事 抗菌塗装宅配ボックス・メールボックス・エレベーターボタン・ドアノブ

改修工事中、在館者の皆様には多大なるご協力頂き誠にありがとう
ございました。 スタッフ一同より

好評です!!8F ラウンジカフェ風自習室



外壁塗装工事
でピカピカ
になりました!



不在でも安心!

光触媒抗菌コートされた宅配ボックス・メールボックス



在館者の声

ラウンジを使用して、心地良い
JAZZ の調べと柔らかな光のおか
げで勉強に集中でき、国家試験
合格と希望の就職先に入社
する事ができました。

(2022年卒業 Sさん)



エレベーターのボタンもラウンジカフェ風自習
室のドアノブも光触媒抗菌コートされ、更に在
館者のみ使用できる専用 EM キーで入室し、癒し
と安らぎの空間で勉強に励む事ができます。



管理室から

四条さんご夫妻からご挨拶

在館者の皆様、初めまして。この度、住み込み管理人としてお手伝いをさせ
ていただきます四條良浩と申します。今年4月から学校に通われる皆さんご
入学おめでとうございます。私自身も大学時代は親元を離れ下宿していた時
期がありました。4月の入館の際には、親御様と共に引越に連れられ、新生活
の準備をされている様子を拝見し、自分の頃と重なり懐かしい気持ちになり
ました。遠方から上京された学生様、そしてお子様を送り出した親御様の気
持ちは考えると不安な事もあるかと思えます。その反面、学生様にとっては
コロナ禍ではありますが、これから新生活に胸膨らませていることと思いま
す。また既に在館されている学生さんも気持ち新たに生活が始まることと思
います。そんな皆様の生活を微力ながらお手伝いをさせて頂けたらと思っ
ています。どんなことでも構いません。気軽に声を掛けてください。皆様、ど
うぞよろしくお願い致します。

四條良浩

東京学生会館で過ごす間、私達の事を同じ家に暮らす家族だと思って何でも
気軽に話して下さい。

四條真理

ベテランの鈴木さん・安井さんに加わりこの春から住み込みの四條良浩さん(40歳)と
真理さん(39歳)が在館者の皆様を見守って下さっています。



東京学生会館事務部門・管理室スタッフと社長・館長。
そして会館内でミュージックスクール運営・校長世界的
ジェイコブカラーファミリー